

# はじめに



北九州市の下水道事業は、大正7年に事業着手し、平成30年に節目となる100周年を迎えました。

本市発足当初の昭和38年の下水道普及率は約2%でしたが、トイレの水洗化などを望む市民の強い要望に応え、高度経済成長期には整備を加速し、市内全域に区域を広げてきました。

普及率は、昭和52年50%、平成18年に99.8%に到達し、衛生環境の改善や河川等の水質改善に大きな役割を果たしてきました。

特に、「死の海」と呼ばれた洞海湾や「どぶ川」と化していた紫川をはじめ、水辺が市民の憩いの場として利用されるなど、本市の水環境が飛躍的に改善し、良好な都市空間が形成されたことは、大きな成果です。

これも、ひとえに市民の皆様のご理解、ご協力と本市上下水道事業に携わった先人たちのご尽力の賜物と深く感謝しております。

下水道事業100周年を迎えるにあたり、これまでの歴史を振り返り、市民の皆様が下水道事業に対する理解と協力に感謝を表すとともに、次の100年につなげるために、『つなげよう次の100年へ～下水道がつくる豊かな水・まち・暮らし』をキャッチコピーとして掲げ、平成29年度から30年度にかけて約20の事業に取り組んで参りました。

「北九州市下水道100周年記念式典」や「下水道展'18北九州」、「マンホールサミットin北九州」などの実施、「北九州市下水道100年史」の発刊などを通して、市民の皆様へ、水環境改善や水害から市民を守る下水道の役割や重要性について理解を深めていただく機会となるよう努めてまいりました。

これから100年先も、下水道は快適で安全・安心な市民生活を支える上で欠かせない施設です。下水道100周年を通過点として、良好な下水道を次世代に引継ぎ、水害から市民を守る重要な役割を果たすことで、「住みよいまち・北九州市」の更なる発展につなげていきます。

平成31年3月

上下水道局長

有田 仁志

